

静岡新聞 2024 年 12 月 11 日 付

論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

さまざまな国の人口を示すサイトがある。スマホの上で国を指定するとその国の現在の人口がリアルタイムで出てくる。シヨックなのは、日本の人口が何秒かに一人ずつ減り続けていることに見えることだ。足元で日本の人口が確実に減少していることが実感できる。これに対して、アフリカ諸国は今でも人口が増え続けていることがよく分かる。

そうした中で世界の人口で重要なことが起きている。アジアや欧州や中南米など、主要な地域で人口が減少を始めている。少子高齢化の中で、生まれる赤ん坊の数のほうが死亡する高齢者より少ない国が大半となっている。それでもアフリカ諸国などではまだ人口が増え続けているが、ここでもいずれ人口は頭打ちになることが予想されて

人口減と地政学的構造

いる。将来の経済状況を予想するのは難しいことだが、人口の将来の動きについてはそれなりに正確に予想できる。世界の人口はもう少し先で頭打ちになり、その先は人口減少が続くようだ。この数百年の間、世界の人口は大きく増加を続けてきたが、その流れが逆転し、人口は減少を続けることになる。

こんなことあえて言わなくても、日本の現状を見れば分かると言われるかもしれない。少子高齢化による人口減少で、過疎化する地域が広がっている。多くの産業で人手不足が深刻になっている。最も深刻なのは社会保障分野で、医療や介護に必要な資金の負担は増える一方だが、それを支える現役世代の人口はどんどん減っている。

一人の女性が一生の間に生む子供の数である出生率がおおよそ2よりも小さくなる。その国の人口は減り始める。お隣の韓国はこの出生率で世界有数の低さである。ロシアや中国でも出生率は非常に低い。日本を含めてアジアの近隣国は少子高齢化の波の真ただちにある。

世界の人口が減少していくという点を切り口にすると、いろいろな考察が可能だ。例

えば、地政学的問題の構図などその典型だ。現在、ロシア・中国・イラン・北朝鮮の4カ国が世界の平和への大きなリスク要因となっている。この構図が今後どのように変わるのか、あるいは変わらないのかは興味深い点であるが、この四つの国のいずれもが人口を大きく減らしていく存在であることに注意しなくてはならない。人口の変化のスピードは緩やかなものではある。あくまでも長期のビジョンではあるが、世界の平和を脅かす国々が人口減少の激しい国であるということは興味深い。

人口減少と地政学的な構造の変化でもう一つ興味深いのは米国の存在だ。先進国の中で例外的であるが、米国ではまだ人口が増え続けている。非白人の国民を中心に出生率が高いこと、そして移民として流入する人口が多いことが、人口増加の主たる原因である。人口だけで国力が決まるわけではないが、世界をリードする存在の米国で人口が増え続けていることは、米国の存在が世界の秩序を考える上でますます重要になってきているということだ。そうやって考えると、移民問題にも違った視点を持つことができ